

児童図書室だより

🐱よんでみませんか 児童図書室がえらんだ本🐱

ものがたり
ちしきの本

No. 102(2018. 1)

わすれんぼっち【小低】

橋口 さゆ希 作 つじむら あゆこ 絵
PHP 研究所 2017.9 (J913-ハシ-1111412472)

おひさま模様がついた黄色いカサのピカちゃん。雨の日は、メグちゃんと一緒におでかけです。ところがある日、電車の中でメグちゃんに置き忘れられてしまいます。ピカちゃんは、地下鉄の「わすれものセンター」に連れて来られ、カサたてにいられました。そこには、忘れもののカサたちがいっぱいいます。でもこのカサ立てにいられるのは1週間だけ。そのあとは、奥の部屋に連れて行かれ、「わすれんぼっち」になってしまうのです…。

10歳の質問箱 続

なやみちゃん、絶体絶命！【小中】

日本ペンクラブ「子どもの本」委員会 編 鈴木 のりたけ 絵
小学館 2017.10 (J159-シツ-1111437014)

子どもの人生相談に大人が答える『10歳の質問箱』の続編です。「いやな子の性格を直すことはできますか?」、「なぜ本を読まなくちゃいけないんですか?」など、10歳前後の子どもたちの素朴な疑問や真剣な悩みに、44人の大人たちが真面目に答えます。その答えが正しいわけでも、完璧なわけでもありません。答えは、ひとつじゃない、いろんな考え方があることも教えてくれる、子ども版人生相談です。

よくわかる LGBT

多様な「性」を理解しよう【小中～小高】

藤井 ひろみ 監修
PHP 研究所 2017.9 (J367-ヨク-1111422880)

「さまざまな性」をテーマにした一冊です。こころの性とからだの性って? LGBT って何? もしも自分や友だちが LGBT だったら? といった疑問に答え、さまざまな性を生きる人たちが生きやすい世の中にするために、日本や世界でどんな取り組みが行われているのかを紹介します。性のあり方について分かりやすく書かれており、子どもだけでなく、大人が読んででも新たな発見のある本です。

カレーライスを一から作る 関野吉晴ゼミ【小高】

前田 亜紀 著
ポプラ社 2017.11 (J610-マエ-1111441886)

“武蔵野美術大学で、探検家でもある関野吉晴先生が行ったある授業。この授業ではカレーライスを作りますが、材料はスーパーマーケットでは買いません。野菜は種から、米は苗から、鶏肉はヒナから、スパイスや塩も器もスプーンもすべて、「一」から作るということです。かかった時間は9か月。どんなカレーライスが出来上がるのでしょうか。普段当たり前前に食べているものが、どんな風に作られているのか、当たり前前にありすぎて気がつきづらい、「食べ物」と「いのち」について考えさせられる一冊です。

灰色の服のおじさん【小中】

フェルナンド・アロンソ 著
ウリセス・ウエンセル 絵 轟 志津香 訳
小学館 2017.10 (J963-アロ-1111429460)

いつも灰色の服を着ているおじさんがいました。服は全身灰色、でもおじさんの心のなかはにじ色でした。おじさんの毎日は、おなじことのくりかえしでした。ただ一つの喜びは歌うこと、なのに職場の上司に「歌うな!」と言われてしまいます。カフェテリアでも店主に歌うことを禁止され困ったおじさんは、むし歯のふりをしてあげを布でしばってしまいます。そして、意外な結末が。表題作をふくめ8つの短編を収録した、不思議で、意外で、ちょっとほろ苦い、スペインの児童文学です。

わたしも水着をきてみたい【小中～小高】

オーサ・ストルク 作 ヒッテ・スパー 絵 きただい えりこ 訳
さ・え・ら書房 2017.10 (J949-スト-1111431772)

ソマリアからスウェーデンに引っ越してきた女の子ファドマ。ファドマが通うスウェーデンの学校では金曜にプールの授業がありますが、ソマリアでは人前で泳ぐ、ましてや男の子と一緒に泳ぐなんて考えられないことです。先生は木曜の午後になると「明日はプールの日よ! 水着を忘れないでね!!」と言いますが、もちろんファドマは水着を持っていませんし、両親も、そんな授業があることを信じてくれません。でも、新しいことに挑戦したい、泳いでみたいと思ったファドマは…。

あした飛ぶ【小高】

東田 澄江 作 しんや ゆう子 絵
学研プラス 2017.11 (J913-ツカ-1111440010)

ある事情からお母さんと一緒に姫島にやってきた星乃は、クラスの誰とも関わらず、心を閉ざしていました。そんななか星乃は、旅する蝶アサギマダラを探す授業中に、羽に「リュウセイ★=100」とマーキングされたアサギマダラを見つけます。一般的なマーキングの書き方と違うこれは、誰が何の目的で書いたものなのでしょう。気になった星乃は、おばあちゃんや担任の三船先生に助けられながら調べていくことにします。周りの人のあたたかさや生き物の強さに触れ、次第に心を開いていく少女の成長物語です。

わたしがいどんだ戦い 1939年【小高】

キンバリー・ブルベイカー・ブラッドリー 作 大作 道子 訳
評論社 2017.8 (J933-フー-1111415189)

1939年、戦争のさなかのロンドン。右足が不自由な10歳のエイダは、母親に認めてもらうため、懸命に歩く練習をしていました。戦況が悪化するなか、弟をはじめ他の子どもたちがみんな疎開することを知ったエイダは、爆撃と母親の虐待の悪化に危機感を持ち、母親に内緒で弟と一緒に疎開しようと考えます。無事に疎開できたものの、疎開先でのスーズンをはじめとする人々の優しさにとまどい、素直に受け入れられないエイダ。自分らしく生きるために戦う少女と、彼女を温かく包む村の人たちを描いています。

